

令和6年第1回三重県介護現場革新会議 議事概要

日時 令和6年7月12日(金) 18時45分から20時15分

場所 三重県津庁舎6階大会議室

1 出席委員(敬称略)

12名

服部 昭博、小野 昌宏、小西 博、山崎 和彦、三吉 由美子、杉本 郁夫、
柳川 智子、奥田 隆利、日比 むつみ、百済 勝彦、奥野 裕子、永合 由典

2 事務局

三重県医療保健部長寿介護課 井谷、河内、渡邊、澤村

みえ介護生産性向上支援センター 甲斐、浦、野呂

3 傍聴者

1名

4 開会

みえ介護生産性向上支援センターの開設について

- ・資料にもとづき、事務局(井谷)から説明。

資料1:みえ介護生産性向上支援センターの設置について

5 議題 ※議事進行は小西会長

(1) 令和6年度三重県介護現場革新会議対応方針について

- ・資料にもとづき、事務局(河内)から説明。

資料2:三重県介護現場革新会議対応方針(案)

(2) 令和6年度みえ介護生産性向上支援センター事業計画について

- ・資料にもとづき、事務局(センター)から説明。

資料3:令和6年度みえ介護生産性向上支援センター事業計画(案)

資料4①:研修会・展示会開催要項(案)

資料4②:業務改善モデル事業所募集要項(案)

(3) 意見交換

資料5:意見交換

(杉本委員)

センター業務の委託に係る公募に対する手上げは何件あったのか。また、センターの人員配置や予算規模はどのようなものになっているのか。

(事務局：河内)

手上げがあったのは一者。公募期間は1か月程度を設定した。手上げは一者だったが、選定委員が基準を満たしているかの審査を行った上で、選定を行っている。予算は約1,400万円弱。

(事務局：甲斐)

人員体制については、相談窓口は甲斐が主に担当。不在の場合は介護福祉士会事務局の職員が担当している。その他事業の体制については資料3の5ページのとおりとしている。

(三吉委員)

モデル事業所の募集を3事業所程度で行うということが、同じようなサービス種類の事業所に偏らず、いろいろな種類のところをモデル事業所の対象にしてもらいたい。

(事務局：井谷)

県内の事業所においては、地域の状況や規模、サービスの種類等も様々であるため、その点をふまえた上で、いろいろなケースでモデル事業を実施し、先進事例を作っていくきたい。

(杉本委員)

生産性向上の取組に関する研修会や介護ロボットの活用等の以前に、事業所等の経営者や運営者の意識を変えていく働きかけが必要ではないか。単に介護ロボットやICTの導入を行えば生産性向上につながるとは言いにくいので、介護ロボット等を導入するにあたっての経営者側の視点はどうかということにも視点を向ける必要があるのではないかと。

(事務局：井谷)

ご指摘のとおり、経営陣の意識も変えていく必要があると考えるため、今年度開催する研修会についても、経営陣向けの研修と実際導入する現場の職員向けの2つに対し、それぞれテーマを設けて研修会を企画していこうと考えている。

また、センターでの相談についても、経営者側の視点で相談したい、あるいは実際に現場で働く側として相談したいという相談があった際に、適切に助言等を行える体制を

作っていきたいと考えている。

(小野委員)

今回のセンターの事業等に係る広報については各団体から周知するとしているが、各団体だけで良いのか。市町等にもしっかりと理解してもらわないと、実際の介護事業所になかなか伝えたいことが伝わらないのではないかな。

(事務局：河内)

市町等への周知についてもいろいろな場において行っているが、十分でないところもあるかと思うので、その点は改善しながら進めていきたい。

(奥田委員)

資料4①の研修会の開催日程で、1回目が津市、2回目が四日市市ということだが、三重県の状況として、県南部ではなかなか人材が集まらないということがあるため、県南部での開催も検討してほしい。また、令和6年度介護報酬改定で追加された生産性向上推進体制加算について、算定できない事業所にはどのような問題点があるか等について情報収集や分析を行うことで問題が見えてくるということもあるため、しっかりとアンケート等での分析を行ってほしい。

(事務局：井谷)

研修会については、今年度に関してはすでに準備を行っているということもあるため、津と四日市で開催する予定。ただし、次年度以降の開催地については、過去の開催場所をふまえながら選定していきたい。また、仮に地域から要望があれば、職員が出向いて相談や説明等を行うという形もあると考えている。

生産性向上推進体制加算に関するデータについては、アンケート等を実施した上で、どのような成果が出ているか等について検証していきたい。

(柳川委員)

専門家の派遣を行う中で、事業所に他の専門的な視点が入るということで事業所の管理者の心構えが変わってくると考えるので、杉本委員の発言にもあったように介護ロボットや ICT だけに力をいれるのではなく、管理者をいかに育てるか、また利用者から事業所がどのように評価されているかという自己評価等に目を向けることで質の向上につながっていくと考える。

(服部委員)

センターの総合相談窓口について資料で説明があったが、日中は3人が窓口に出ているということか。

(事務局：甲斐)

相談内容に応じて振り分けを行うという形を採る。電話だけのやりとりの場合、言葉のあやや捉え方の違い等が発生する可能性があるため、一旦は電話で受けて、後日改めてヒアリングに伺うなどの形を採ることを考えている。

(服部委員)

生産性向上推進体制加算関係で、老健協の関係団体では今月から研修をオンデマンドで開催する予定だが、加算Ⅰはかなりハードルが高いため、まずは全施設において加算Ⅱを取得するようとしている。あまりハードルを高くすると加算を取りづらくなるため、そのハードルを下げていくというような取組や支援も併せてお願いしたい。

(杉本委員)

ICTの補助事業の補助金申請手続きについて、特に規模の小さい事業所になると申請業務に多くの負担がかかる。例えば、民間企業でも既に実施している企業もあるが、補助金の申請書類を作成する際の相談や助言を行うことはできないか。センターの機能として、上記のような目に見える取組を行うことで、機器の展示やその他の事業にもよりつなげ易くなるのではないか。

(小野委員)

私も老健協の事務局として補助金の申請を行ったが、申請事務は本当に大変だった。実際に補助金の支援をしてももらえると助かると思うが、申請書類や添付書類が大量にある点についても検討してもらいたい。

(事務局：井谷)

申請書類が多い理由については、公費による補助事業ということもあり、国から補助金を受けるにあたり細かい要件が多く設定されており、その要件を確認できる書類を提出することができない場合は補助対象とならないという制度設計になっていることがある。また、国がルールを決めたものに対して、県側の判断で簡素化するということがかなり困難であるという現状が主な理由としてある。今回の介護テクノロジー導入支援事業は、毎年度国から細かい条件の確認を求められている事業であるため、ご意見としては賜るが、書類を減らすことについては対応しかねる。ただし、規模の小さい事業所の負担が大きいことは重々承知しているため、例えば、ICT・介護ロボットの導入については、できるだけ事業所の負担を減らすために、国が4分の3以上で実施するようとしている補助率について、全国では三重県のみが補助率を5分の4まで引き上げている。書類作成の手間についてはなかなか軽減することはできていないが、補助率を上げることによって事業所の負担を減らすようにしている。

申請にあたり不明な点等があれば、長寿介護課の施設サービス班までお問い合わせいただきたい。

6 その他

(事務局：河内)

資料4の伴走型支援について、今月中に募集を行い、8月に応募があれば、本来であれば介護現場革新会議の場において事業者の選定を行うこととなるが、実際に集合して開催することは難しいかと思われるため、書面開催という形でさせていただきたい。応募があった後には、本日ご意見いただいた幅広くという形の選考基準の

要件などとともに照らし合わせて事務局で整理した上で、各委員にはそれらの選考についてお願いしたい。

また今後、ロボットの展示会や研修会といった行事についても各委員にはご案内・周知をさせていただく。

次回開催は、生産性向上の取組状況や今年度の伴走型支援の進捗に関して、令和6年度事業の実施上の課題が見えてくる場所であるかと思われるため、年明け頃に開催する予定としている。

(小西会長)

本日の各委員の意見をもとに、みえ介護生産性向上支援センターの運営がうまくいくように期待している。事務局にも期待しているのでよろしくお願ひしたい。

(事務局：井谷)

本日は皆様から貴重なご意見ありがとうございました。センターの業務を進めていくにあたり、この会議での皆様の意見を参考にしながらより良いセンターとしていき、介護の現場で働いている方々や経営者の方々がよりやりがいを持って働きやすい現場に変わっていくようにしていきたいと思っているので引き続きご支援をよろしくお願ひいたしたい。本日はありがとうございました。